

仙台市政報告

伊藤ゆうた

県初 男性市議の育休

今月から伊藤・仙台市議



長男の赤ちゃんをお風呂に入れる伊藤市議（1月16日、仙台市青葉区）

同市議会の会議規則第2条に議員の欠席規定があり、出席理由に「出産の立ち会い」や「出産の立ち会いや育児」などを追加するよう鈴木勇治議長に申し入れた。

「出産立ち会い」欠席規定に追加要望

「伊藤市議は第2子の誕生を控えていた9月、出産妻の伽羅さん(34)との間に第2子となる長男昌ちゃんを授けました。最近では長女花ちゃん(6)を保育園へ送りながら、一度帰宅して長男の入浴や掃除、買い物などを手伝う。

「伊藤市議は「性別で役割を決める社会にはしたくない。男性のサポートが特別ではない雰囲気を作りたい」と話している。

イクメン応援 男性の 育児参加の推進を！



「育児参加のきっかけに」

仙台市の伊藤優太市議(35)が、12月の市議会定例会で育児休業を取得する。同市議会などによると、県内で市議や県議の男性が育児休業を取得するのは初めて。伊藤市議は「男性が育児に参加しやすい社会作りのきっかけになってほしい」と語る。

▶ 読売新聞 令和2年12月1日掲載

▶ 河北新報 令和2年9月19日掲載

伊藤ゆうたは令和2年第4回定例会の一部日程について育児休暇を取得しました。また、男性議員の育児休暇等に関わる会議規則の改正について鈴木勇治議長宛に会派として要望活動を行いました。合わせて、オンラインを活用した会議、委員会の実施等、議会活動と育児を両立できる各種の環境整備、制度化を行うことも要望しました。令和2年第3回定例会 決算等審査特別委員会 第一分科会で男性職員の育児休暇について、育児休業取得手続きの簡素化の取り組みに関して質しました。今後も議会での活動を通して、社会全体として更なる男性の育児参加が推進される環境整備のために尽力し続けます。



声が届いた！

コロナ不安・子育て応援

新生児臨時特別給付金が実現！

新型コロナウイルス感染症による不安が続く厳しい環境の下で子育てを応援するために新生児臨時特別給付金の支給が実現しました。令和2年第2回定例会 一般質問で伊藤ゆうたがコロナ禍で里帰り出産が難しくなっていること、コロナによる収入減少等の産前産後への影響等、不安を抱えるお母さん達の切実な声を紹介し、仙台市独自の給付金の実施を強く求めました。引き続き、子育て世代の声を市政に反映できるよう議会活動に邁進します。



出産立ち会いは「事故」？

妻の出産に立ち会ったことは「事故なのか」。第2子誕生を来月に控える仙台市議の伊藤優太氏が18日、会議規則にある欠席理由に異議を唱え、鈴木勇治議長に条文変更を申し入れた。

仙台市議会

男性議員 欠席規則に異議

会議規則のうち、議長への欠席の届け出を定めた第2条の表「出席理由」に「公務」「疾病」「出産」「その他の事故」しかなく、出産に立ち会った場合は「事故」に該当してしまう。

伊藤氏は「出産の立ち会い」を「育児」に追加するよう要望。環境整備も求めた。鈴木議長は「時代の流れに対応し、考えなければいけないこと。今後、議論していく」と応じた。

オンライン授業

早期オンライン授業の実現を!



仙台 オンライン授業の早期導入を要望
不登校や長期入院の児童・生徒へ

子ども達の学びの保障と感染予防の両立を最大限に取り組むことが重要なことです。令和2年第1回臨時会で、多くの保護者の皆さんからお声を頂いていたオンライン授業について早期実現を求めました。また保護者の皆さんの任意団体の皆さんと共に議員として要望活動を行いました。ICTを活用したオンライン授業について引き続き提言していきます。

▲ミヤギテレビ 令和2年7月20日放送分より引用

市立小中学校

学校のトイレ設備の早期改修を!

学校のトイレ設備について保護者の皆さんからお声を頂き、現場に足を運びました。保護者の皆さんや先生方の切実なお声も伺い、令和2年第3回定例会 一般質問で故障したままの換気扇や排水溝の臭いの問題等を早期に解決する必要があると強く求めました。教育長からはできるだけ早期に対応するという答弁がありました。児童生徒の健康増進の観点からも学校環境衛生が保たれるよう取り組んでいきます。



仙台市音楽ホール構想

市民理解が得られる音楽ホールを

令和元年第4回定例会から令和2年第3回定例会まで仙台市音楽ホール構想についての質問をしています。市民の中にも多くの疑問の声がある音楽ホールの進め方について、市民理解が得られるプロセスが必要との思いで発言してきました。令和2年第3回定例会では、以前から求めていた再度の需要調査が行われることが明らかとなりました。また、芸術文化指針に音楽ホールが位置づけられていない現状と、指針自体が13年改訂されていないという、ちぐはぐな進め方について指摘しました。副市長からは「文化振興計画全体の基本計画をどう持つか」という議論はこれまで俎上に載らなかった。指針は現在の方向性を示すものになっていない。どういう方向を持つべきか今後検討したい」という趣旨の答弁がありました。今後も、巨額の税が必要となる事業について、市民理解が得られるプロセスとなるよう指摘していききたいと思います。

芸術文化指針見直しへ 仙台市検討 13年間改訂なし

郡和子仙台市長は5日、市議会9月定例会決算等審査特別委員会で、2007年に策定した「芸術文化振興のための指針」の見直しを検討する考えを示した。策定から13年間、一度も改訂されず、市が整備を自負す音楽ホールの位置付けが不明確となっている。市によると、指針は文化芸術推進基本計画の役割も兼ねた市の芸術文化振興の基本的方向性に相当する。音楽ホールは11年度に始まった現総合計画で検討方針が打ち出されたため、指針に一切言及がなく「音楽的な専門性が高い施設についての調査研究」と曖昧な位置づけになっている。

質問した伊藤優太氏「市民と未来のために、芸術文化の振興のため、音楽ホールはどうあるべきか指針の中で示すべきだ。位置付けがないまま、個別の計画が先行するのは、進め方がちぐはぐと言われても」

副市長は「文化振興全体の基本計画をどう持つか」という議論は、これまで俎上に載らなかった。指針は現在の方向性を示すものになっていない。どういう方向を持つべきか今後検討したい」と説明した。

▲河北新報 令和2年10月6日掲載

▲河北新報 令和2年9月15日掲載

仙台市音楽ホール構想 需要改めて調査 郡市長

郡和子仙台市長は14日、市議会9月定例会本会議で、市中心部への音楽ホール整備に向け、需要の再調査を実施しているが、市内ホール施設の老朽化など将来見通しを加味して、必要に自信を示し、音楽ホール整備の必要性を強調していた。

伊藤優太氏「市民と未来のために」の一般質問への答弁。市は第45年以上がたに老朽化する市民会館（青葉区）の在り方を含め、市内全ホールの将来見通しを体系的に整理する方針。郡市長は「その中で需要調査も実施し、結果を踏まえ、厳しい財政状況を勘案しながら、基本構想の策定へとつなげる」と説明した。

市は15・17年度の需要調査を踏まえ、有識者による音楽ホール検討委員会を設置し、19年3月に2000席規模のホール整備の提言を得た。だが、調査は臨時の需要を把握しただけで、市内ホールの将来的な存廃を考慮していないという。郡市長はこれまで県が移転新築を目指す2000席規模の新市民会館に関連し「県が市の音楽ホール整備を前提に需要調査し（併存しても）供給制になる」

詳しい一般質問や質疑は

仙台市議会インターネット議会中継

検索